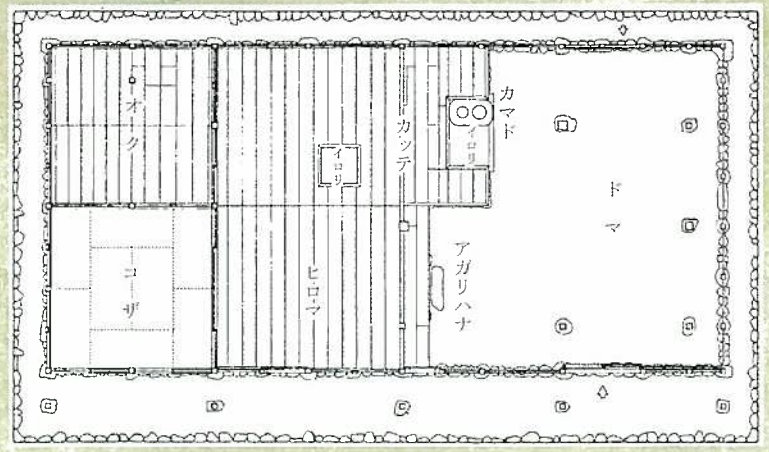
阿久沢家住宅外観



平面図

住宅内の様子

国指定重要文化財　阿久沢家住宅

指定日：昭和４５年６月１７日

構　造：茅葺寄棟造り

規　模：桁　行　　１５．３　　m（八間）

　　梁　間　　８．２　　m（四間半）

建築年：不明（建築手法から１７世紀末頃と推定）

赤城山南麓地域は、屋根裏を養蚕に利用するために、江戸時代末期～明治時代につくられた「赤城型民家」（※１）が多く見られます。

阿久沢家住宅は、これより一時代古い形式でこの地方で養蚕が盛んに行われる以前の民家の形を残し、北関東地域の平地の中規模農家の典型的な古民家と言えます。

本住宅は開口部が極めて少なく、棟をクレグシ（※２）にし、アガリハナやカッテのカマドの位置などが、この地方ならではの特徴をあらわしています。

阿久沢氏は同姓の本家筋に当る旧家です。江戸時代初期にはこの地に住み着き、名主（※３）などを務めていたことが古文書などからわかります。

周辺には、屋敷林や井戸跡も残り、この地域の人々の暮らしの様子を体感することができます。

※１　大室公園（前橋市西大室２５４５）には、本市飯土井町から移築した江戸末期の「旧関根家住宅」がある。

※２　土葺の棟。屋根上部に植物を植える。当地域では、ノシバ・イチハツ（アヤメ類）・イワヒバを植えた。

※３　名主は村の長で相応の財力がある人。